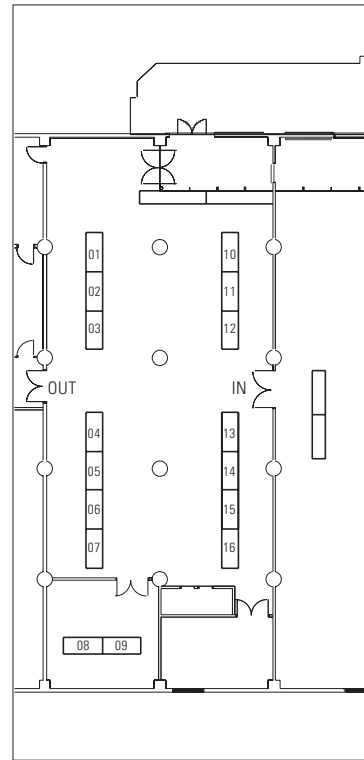


NEW HORIZON IN KOREAN ARCHITECTURE

In this exhibition, the works of sixteen teams of young and active Korean architects will be introduced. Having different backgrounds of becoming an architect, each architect shows their own unique style in their works. Although this is the second exhibition to be held since the first one in Shanghai, this exhibition will show some different characteristics from the previous and will provide a great chance to get a peek of the new horizon of the Korean architecture. This exhibition is a part of an architecture exchange exhibition between Japan and Korea, and in the following year architects of Japan will be invited to Korea to have an exhibition under the common theme.



参加建築家 Participating Architects

01. Choi Wook
02. Cho Jung Goo
03. Han Hyung Woo
04. Kim Chan Joong
Hong Taek
05. Lim Jae Yong
06. Kim Dong Jin
07. Kim Hun
08. Moon Hoon
09. Yoon Woong Won
Kim Jeong Joo
10. Jang Yoon Gyoo
Shin Chang Hoon
11. Kwak Hee Soo
12. Kim Seung Hoy
Kang Won Phil
13. Ken Min Sung Jin
14. Min Kyu Am
15. Yoo Hyun Joon
16. Yoon Seung Hyun
Suh Joon Hyuk



Period

2011. 12. 2 ~ 12.21

Opening Ceremony

2011. 12. 2. 6:00PM

Location

BankART Studio NYK, Yokohama, Japan

Organized by

KAI (Korea Architects Institute)

Special Cooperation by

BankART 1929

Sponsored by

Ministry of Culture, Sports and Tourism in Korea

Commissioner

Lim Jae Yong (Korea), Masashi Sogabe (Japan)

Exhibition and Book Coordinator

Choi Wook, Jang Yoon Gyoo

Participating Architects

Choi Wook, Cho Jung Goo, Han Hyung Woo,
Kim Chan Joong + Hong Taek, Lim Jae Yong, Kim Dong Jin,
Kim Hun, Moon Hoon, Yoon Woong Won + Kim Jeong Joo,
Jang Yoon Gyoo + Shin Chang Hoon, Kwak Hee Soo,
Kim Seung Hoy + Kang Won Phil, Ken Min Sung Jin, Min Kyu Am
Yoo Hyun Joon, Yoon Seung Hyun + Suh Joon Hyuk

韓国建築の新たな地平 NEW HORIZON IN KOREAN ARCHITECTURE



期間

2011. 12. 2 ~ 12.21

オープニング

2011. 12. 2. 6:00PM

場所

BankART Studio NYK, 横浜

主催

(社)新建築士協議会

特別協力

BankART 1929

後援

文化体育観光部

総括企画者

Lim Jae Yong (Korea), Masashi Sogabe (Japan)

展示 及び 出版 コーディネーター

Choi Wook, Jang Yoon Gyoo

参加建築家

Choi Wook, Cho Jung Goo, Han Hyung Woo,
Kim Chan Joong + Hong Taek, Lim Jae Yong, Kim Dong Jin,
Kim Hun, Moon Hoon, Yoon Woong Won + Kim Jeong Joo,
Jang Yoon Gyoo + Shin Chang Hoon, Kwak Hee Soo,
Kim Seung Hoy + Kang Won Phil, Ken Min Sung Jin, Min Kyu Am
Yoo Hyun Joon, Yoon Seung Hyun + Suh Joon Hyuk



• Exhibition Inquiry
KAI +82-2-575-9751

• Opening Hour 11:30 - 19:00

• 〒231-0002 横浜市中区海岸通3-9
TEL. 045-663-2812 FAX. 045-663-2813

• 横浜みなとみらい線「馬車道駅」
6出口【赤レンガ倉庫口】徒歩4分

主催 KAI (Korea Architects Institute) BankART 1929 後援 文化체육관광부



1963年生まれ。弘益大学建築学科、ヴェネツィア建築大学(dottore in arch)で勉強し、madowell colony(usa)、Valparaiso foundation(spain)でフェローシップを受けた。張建築を経て、現在建築士事務所ウォンオウォンの代表であり、韓国芸術総合学校建築科設計チューターとして教えている。

ソウル大学建築学科および同大学院を卒業して日本東京大学博士コースを終了した。2000年からguga都市建築を設立して、'われらの人生と近い普遍的な建築'というテーマを持ち、都市踏査と研究、それから設計などの作業を続けている。

「福宮(ギョウボク)西側地区再仕計画と関連した人文、歴史、環境と韓屋の調査報告書(2009)」と、ソウル歴史博物館が主催するソウルの生活文化資料調査に参加して北ハيون、西大門の外、住、20年(2010年)など各地の乾燥した環境を調査し分析した。また、2001年から始まった都市韓屋の作業の経験と積み、現代の生活を納める40余りの木製の韓屋を設計、また作る操作を進めており、2007年に慶州韓屋博物館「テラ」で韓国の木造建築大展受賞を受賞した。

2010年にはガッドソンソニアで、ソウルの建築賞を受賞し、2010年第12回ベネチアビエンナーレ国際建築展韓国館の作家としても参加し、テーマ空間を設計した。最近では「城北第2住宅家屋の新規助成モデル事業整備計画指名設計競投(2009)」と「順和農漁村のニュータウン造成事業の設計(2011年)」などに当選し、関心の範囲を広げている。



1961年ソウル生まれで、延世大学建築工学科とフランスEcole d' architecture Paris-BellevilleのCEAとDEAを卒業した。ジョンリム建築、ハンウル建築の実務を積んだ後で、1999年から建築士事務所スペースYEONを運営しており、現在、湖西大学建築学科教授として在職している。新人建築賞、韓国建築文化大賞、ソウル市建築賞を受賞した。

Kim Chan Joongは1969年生まれで高麗大学校を卒業し、ハーバード大学デザイン大学院で建築学修士を修了した。空建築(ヴァウル)とChan Krieger Associates(Cambridge, USA)、KSWA(Cambridge, USA)で実務経験を積んだ。現在システムラップのパートナーと慶熙大学の教授、サムスン建設のmaster architectで在職している。第10回ベニシエンナールでは韓国代表として招待された。

Hong Taekは1967年生まれで高麗大学を卒業し、早稲田対大(東京、日本)で学んだ。アトリエノと空間グループ、サムウ総合建築士事務所、KDA Group、TAMAOKA Architectural Group(Nagoya, Japan)で建築家として在職し、第2回Hong-Schenzen Biennaleの承認建築家として招待された。現在システムラップのパートナーとして務めており、高麗大学で教師として教えている。

Lim Jae Yongは1961年ソウルで生まれ、ソウル大学建築学科を卒業してミシガン大学で建築学修士を
取った。1986年LAでO.C.Aを開き、作品活動をスタート。1996年帰国して建築事務所O.C.Aを開所して
現在まで続けている。2000年からソウル大学建築学科で教えている。代表作としてはAA Awardを受
賞した光臨教会の修道院野外音楽堂、2004年建築家協会賞を受賞したリムスコスモ歯科、2006年建
築文化大賞を受賞したオルム、2008年建築文化大賞で優秀賞を受賞したナル石油油屋、2009年建
築文化大賞で優秀賞を受賞したカフェオーラ、2010年ソウル市建築賞で優秀賞を受賞したHanyu石
油などがある。

弘益大学で建築学科とフランスパリーベルビル国立建築大学Ecole Nationale Supérieure d'Architecture de Paris Bellevilleで勉強してからフランス国家公認建築士DPL資格を取得し、韓国では(株)ソウル建築、フランスではBT & AssociatesとSHIN都市建築研究所で実務経験を積んだ。現在(株)ローゼンが都市场环境建築研究所としてEAU design (株).代表を務めており、弘益大学建築学部建築専攻助教授として在職している。代表作としてはパティ_ソウル、スカーレットテルハウス、梧栖高校リノベーション、ルノSAMUNG自動車デザインセンター、ニューヨーク市住居部分ギャラリーなどがある。2008年第3回韓国建築家協会賞、第1回若建築家賞、2007年第25回ソウル市住居部分建築賞、2003年D&D Awards(イギリス)、Art Directors Club Annual Awards(アメリカ)特選および銀賞を受賞した。

1960年ワルゼで生まれた。臨大工学部建築学科とシシガハス学院建築学科を卒業して建築家修士(M.Arch)を取った。現在シシガハス学院と言う名前で建築士事務所を運営しながら、最近はお京大建築専攻大講師(GSAK)および 慶応大建築専攻大学院(SAKHU)教授として在職した。代表作としては、清原 ガソリンスタンド、レチタチボ、シルルプシス、セレンディビティ、スズマト、ヒムノムロ、ロキチュ、ハンギル社社屋、ネム、イビチム、ダコグロム、イキョウル、メモン、ジギウム、デクタなどがあり、ヒムノムロで2004年建築家協会オムドウム建築賞を、ケジウムで2007年オムドウム・デザイン賞と翌年京都建築文化賞銅賞を受賞した。著書としてはデザインキュメント(DI)シリーズ04<記憶 意味線空間>がある。

Moon Hoonは1968年、江道（現江原道）で生まれた。十代頃は、オーストラリアのカスマニアで過ごし、韓国と米国のMITで建築教育を受け、両国の実務経験を積んだ。彼は2001年からスタジオ・ムンパルリを運営しており、いくつもの実験・壊す、溶かす、混ぜる - と、様々な原則を通じて建築のカテゴリを破ることに関心を持った。

彼は建築のカテゴリに開かれた姿勢をとる。彼の主要作品にはRock It Suda, S. Mahal, Mookdong Multi House, Ongdalsam, そして2005年にKIAで受賞したSangsang Museumがある。彼の図面と設置作品はいくつかの美術館で展示されたことがあって、建築表現の可能性を拡大させるための彼の建築に関連する短い映画を演出したこともある。

JGONG建築は2001年ソウルに事務所を始め、"今ここで建築をすると言うのは何だろうか"という質問に対する答えを見つける一連の過程が建築物として形化されるのを望んでいる。JGONG建築はアクセサリ、インテリア、公共デザイン、景観設計、建築、都市計画に対して分けるものなく作業を進める。ボールペンのスプリングを使用したアクセサリーのデザイン、人々がくすぐり器具デザイン、漢江(ハンガン)インタークターシェッド設計、都市農業を公園設計に投入した幸福都市中央緑地公園計画、インフラとしての森を計画した竜山公園計画、ソウル都市構造物で近生建築物の意味を拾い読み夙夜匪寧、映画と光に対する関係を建築から探して見た ミュンファンの私屋、"アンソング建築"と言うものは設計方法論としての探究である明洞大聖堂100周年記念の結果物、JGONG建築の作品である。

Jang Yoon Gyoohはソウル大学建築学科と同大大学院を卒業した。現在国民大学で教授として在職しながらギャラリー-JUNGMIISOとUNSANGDONG建築士事務所の代表である。
 Shin Chang Honは嶺南大学建築学科を卒業して、ソウル市立大学建築大学院を終了した。
 UNSANGDONG建築事務所は建築を文化的コンテンツとしての可能性を多角的に発現するための概念的建築を実験しながら実現する建築家グループである。2007年には世界的な建築賞である Architectural Record 年度AR Awardを受賞し、2006年にはアメリカの著名な雑誌である Architectural Record で世界で革新的な建築家と授与するVanguard Awardを受賞した。2001年には日本雑誌<101>で世界建築家40人にも選ばれた。

Kwak Hee SooはIDMM都市建築代表、弘益大で設計教授、Kyungwon大学室内建築科兼任教授で在職している。彼は限られた生まれる都市現況に注目し解釈が必要な問題を捉え、建築、展示、漫才、起稿 などを通して発表している。知られた作品としては川南のラフカットと屋上部屋の漫才を現実的な解釈で提示した「ティス」(2007)と国道辺の変化を持たした「42番ルートハウス」(2008)、それから「漢江(ハンガン)ガディアンズ」(2010)などがある。彼の漢江(ハンガン)ガディアンズは現代、それ(2010)CMCの舞台としてロケーションされたことによる。

Kim Seung Hoyはソウル大学建築学科と大学院を卒業して ミシガン大学で修士課程を終えた。ジョン・ギョム建築とSOM、ソウル建築で実務を慣らして、1995年建築事務所「経営位置」(www.kywc.com)を開所して設計作業を始め、ソウル大建築学科教授として在職している。代表作としてイウ学校、文・学町、世界装身具博物館、夫餘リゾート、ヨンドン教会、ソウル大環境館、梨花(イファ)外高ビジョン館、ヤンビョン住宅、ソウル都市デザイン計画などがある。2006年ベネチアビエンナーレに招待され展示してから、東京とベルリン、ボストンなどで展示会を開かれた。キムスグン文化賞、建築家協会賞、ソウル市建築賞、イウン環境建築大賞、建築文化大賞などを受賞した。

Kang Won Philはソウル大学建築学科と大学院を卒業した。LKUN建築士事務所とソウル建築で実務を慣らして、1995年建築事務所「経営位置」(www.kywc.com)を開所して設計作業を始め、ソウル大建築学科教授として在職している。代表作としてイウ学校、文・学町、世界装身具博物館、夫餘リゾート、ヨンドン教会、ソウル大環境館、梨花(イファ)外高ビジョン館、ヤンビョン住宅、ソウル都市デザイン計画などがある。2006年ベネチアビエンナーレに招待され展示してから、東京とベルリン、ボストンなどで展示会を開かれた。キムスグン文化賞、建築家協会賞、ソウル市建築賞、イウン環境建築大賞、建築文化大賞などを受賞した。

Min Jung Sunは南カリフォルニア大学(USC)で建築学学士、ハーバード大学(Harvard GSD)で建築学修士を取った。1995年SKM建築事務所を設立し、韓国はもちろん海外でも活発に活動している建築家である。代表作としてはナンテクトラプソコ(2010)、ヒルトン南海ゴルフ＆スパリゾート(2006)、GS建設デザイン住宅文化館(2007)、坡州(パジュ)ヘルマンハウス(2003)、金剛山リゾート、ラオアパベイホテル(2008)、および安眠島マスタープラン(実施設計段階)など建築界で注目される多数の規模あるプロジェクトを設計した。

受賞経歴としては優秀デザイン(GD)大統領賞、韓国最大のリゾート賞であるWorld Travel Awardsと韓国建築家協会賞など多数の賞を受賞した。

Min Kyu Amはソウル大学建築学科を卒業し、アメリカMIT建築大学院で M.Arch過程を取った。初建築作品である「寒湖齋」(ハンパジェ)で建築文化大賞、建築家協会賞、東アジア建築家協会アカシア建築賞などを受賞する栄誉になった。現在TOMA建築士事務所を運営しながら建築活動と共に様々な大学で教えている。また、建築士協会の国際委員として Arcasia など様々な国際建築会議で韓国代表としても活躍している。

釜山大学建築大学学科長および Hyunjoon Yoo Architectsの所長、それからアメリカ建築士(AIA)である。延世大学建築工学科卒業後、アメリカのMeierとハーバードでM.Archを取ってハーバードを優秀(M.Arch with Distinction)で卒業した。Richard Meier ニューヨーク 事務所とMIT建築事務所勤務をして、2010年ではMIT交換教授として在職した。個人作品で5回の国際コンペで優勝した経験があり、帰国後2009年度韓国建築家賞を受賞した。彼の作品Floating HouseはCNNで選ばれるSeoul's Architectural Wondersの15作品の内選ばれた。対外活動としては大統領府(青瓦台)のリフォーム諮問と韓国建築大展審査委員など様々な要歴を歴任した。

Yoon Seung Hyunは1964年生まれで、延世大学とペンシルバニア建築大学を卒業した。
Suh Joon Hyukは1965年生まれで、延世大学、デンバー建築大学を卒業した。
彼らは2003年にインターカレードを設立以来、私たちは、建築自ら生まれ、進化する一連の過程に注目してきた。それは、建築を人生の感覚器官として、我々に誘導して私たちの社会の美しい創造的活動を作成した。